

研究情報公示用ポスター

「動物種間組織比較によるヒト食道横紋筋組織の形成メカニズムの解明」へご協力いただく方へ
(2024年から2028年の間に本学食道外科学で食道癌の手術を受けられた患者様で、バイオリソースセンターに検体保管することに同意されている患者様へ)

本学では下記の臨床研究を予定しております。

(1) 研究の概要について

研究題名：動物種間組織比較によるヒト食道横紋筋組織の形成メカニズムの解明

承認番号：I2025-036

研究期間：研究機関の長の許可日 ～ 2028年12月31日

本学での研究責任者：東京科学大学大学院医歯学総合研究科 病態代謝解析学分野 栗木麻央

(2) 研究の意義・目的について

ヒトの嚥下や食事に必要不可欠な食道の筋肉（食道筋）は、食べ物を胃の方へ動かす横紋筋と呼ばれる筋肉と、食道のスペースを広げる事ができる平滑筋という筋肉から成り立っています。これらの食道筋の機能が障害されると、Di George 症候群（22q11.2欠損症）や嚥下障害、食道低形成などの病気の原因となると考えられていますが、今までヒトの食道の研究は少なく、食道筋の成り立ちや構造については殆ど理解されていません。私たちの研究は、食道筋の食道筋の主な機能部位である横紋筋に注目し、食道横紋筋が正しく作られ維持される為のメカニズムの理解に努め、上記の病気の根本的治療法の開発に貢献する事を目的としています。

(3) 研究の方法について

本研究では、2024年から2026年の間に本学食道外科学で食道癌の手術を受けられた患者様の余剰検体（病理検体として使用しない余った部分の組織）の食道組織を回収させていただき、その組織中の筋肉組織を解析します。これには、Spatial RNA トランスクリプトーム解析などによる網羅的遺伝子解析や蛍光イメージング撮影による詳細な組織3D構造の解析などを行います。

(4) 試料等の保管と、他の研究への利用について

本研究で組織学的解析に用いる食道の手術余剰検体は、本学疾患バイオリソースセンターの鍵付き冷蔵庫に保管します。研究終了後のおおもとの研究に合わせて、試料・情報は10年間、保管します。この研究で得られたデータを、将来、消化器疾患の治療研究に二次的に利用する場合があります。その際は新たに研究計画書を作成し、別途倫理審査委員会の承認を受けて実施します。

(5) 研究協力の任意性と撤回の自由について

この研究試料として組織学的解析に自分の食道の手術余剰検体を使ってほしくない方は下記研究者連絡先へご連絡ください。研究への不参加または協力の撤回に伴い、何らかの不利益を受けたりすることは一切ありません。この研究計画を倫理審査委員会が承認し、大学の許可を得て実施しております。大学の許可から1か月後から試料を利用いたします。

(6) この研究の資金について

本学においては東京科学大学病態代謝解析学分野で獲得された文部科学省科学研究費補助金により実施されます。本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供して

もらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

(7) 研究により得られた結果等の取扱い

本研究の結果が対象者の診療などに直ちに影響するものではないため結果説明は行いません。

(8) 研究体制について

この研究の実施体制は以下の通りです。

① 研究責任者

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 病態代謝解析学分野

助教 栗木麻央

研究立案、試料の管理責任、組織解析

② 研究分担者

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 病態代謝解析学分野

教授 大石由美子

東京科学大学 総合研究機構 研究基盤クラスター 疾患バイオリソースセンター

助教 高橋 健太郎

東京科学大学 消化管外科学分野

講師 藤原 尚志

(9) 本学での問い合わせ先

研究者連絡先：東京科学大学

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 病態代謝解析学分野

助教 栗木麻央

TEL：03-5803-5166（対応可能時間 平日 9:00～17:00）

苦情窓口：東京科学大学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

TEL：03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）